協議事項 11

外国人児童生徒への支援の拡充について

外国人児童生徒への支援の拡充について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和６年６月 11 日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長　　高田　純

外国人児童生徒への支援の拡充

１．現状

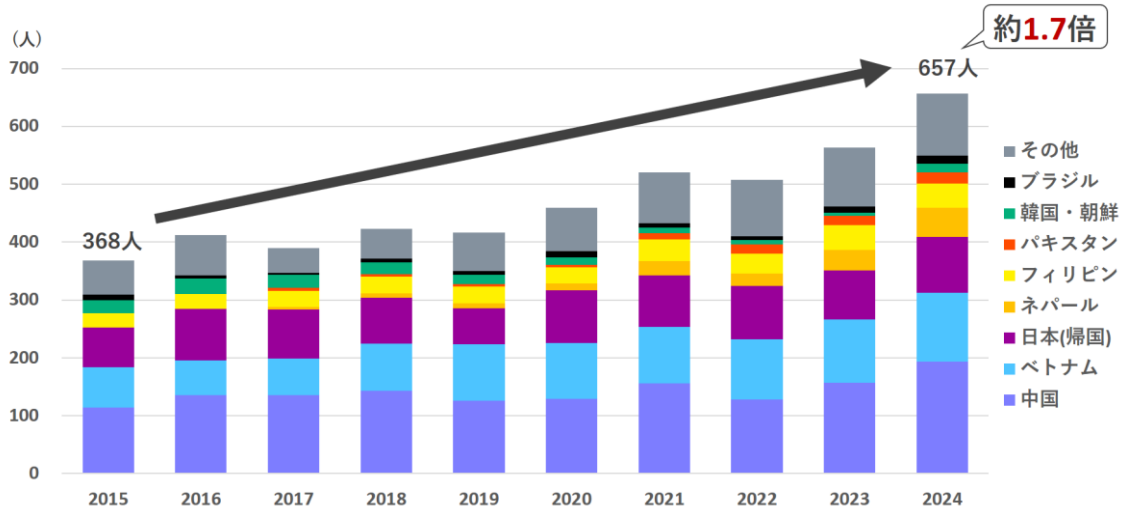
○市立小・中学校に在籍する「外国籍児童生徒」の増加とともに、「日本語指導を必要とする外国人児童生徒（日本国籍を含む）」も増加傾向にある。

○日本語指導を必要とする児童生徒は、令和６年５月１日現在、657 名（昨年比 94 名増）在籍している。

国籍別では、中国が全体の３割を占めており、ネパールやパキスタン、ベトナムやフィリピンといった南アジアや東南アジアを中心に増加している。

➡　児童生徒への母語支援・日本語指導のニーズは、年々高まっている

〈日本語指導を必要とする児童生徒数の推移〉



２．外国人児童生徒への支援

○外国人児童生徒が新たに来日した場合に、まず受け入れをする学校で、児童生徒の日本語能力を測定し、生活・学習状況、適応状況を把握する。

○判定の結果、日本語指導が必要な場合は、「こども日本語サポートひろば」（令和 2 年度～）が中心となり、学校をサポートする。

○児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるように、在籍校の教員による指導とともに、日本語指導支援員を派遣し、「日本語による日本語指導」を行っている。さらに、令和 6 年度より、「日本語ひろば（初期日本語指導教室）」を開設した。

○児童生徒と教員がコミュニケーションを図れるように、児童生徒の母語で通訳等を行うランゲージ支援員や留学生を派遣し、「母語による支援」を行っている。さらに、令和 6 年度より、「授業通訳支援ツールの導入」を開始した。

３．令和６年度からの取り組み内容

（１）日本語ひろば（初期日本語指導教室）の開設

〇海外から日本に来たばかり(新渡日)の日本語が理解できない児童生徒が、日本での学校生活をスムーズにスタートできるよう、初期日本語を集中的に学べる日本語指導教室（1 クール　11 日間（33 時間)・年間 11 クール実施）を開設。

（２）授業通訳支援ツール「ポケトーク for スクール」の導入

〇母語支援や日本語指導のニーズの高まりとともに、ランゲージ支援員が不在となる時間帯の学習支援が課題となっていた。

〇５月より、学習環境の充実を図るため、授業中に教員が話す内容を同時通訳する授業通訳支援ツール「ポケトーク for スクール」を導入している。学校への導入は、自治体初の取組みである。

≪ポケトーク for スクールとは≫

Bluetooth マイクを通じて、教員が話す日本語が児童生徒の母国語に瞬時に自動翻訳され、児童生徒の手元の学習用パソコンに表示されるサービスのこと。